

## 小児一次救急医療体制の確保について

### 1. 急患診療所における出務医師の現状

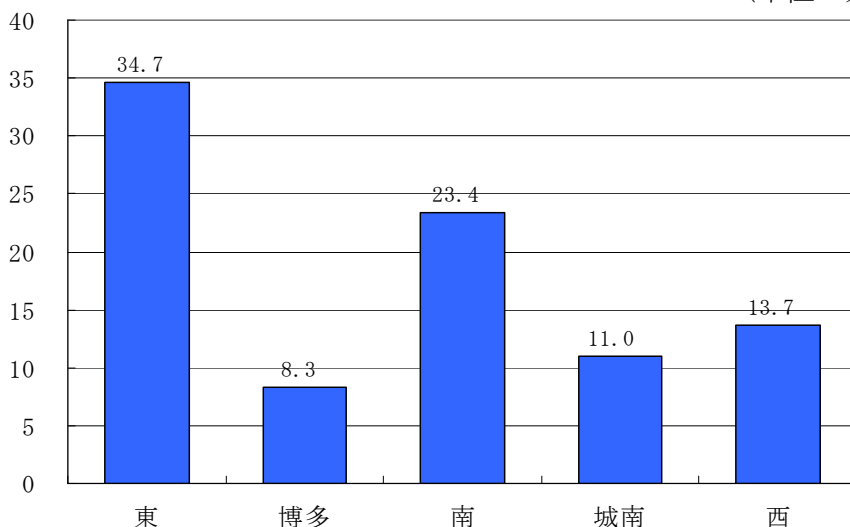
- 現在、急患診療所には内科小児科併診医師が出務している。
- ただし、小児科も併せて標榜している内科医は、小児科診療の経験が少なく、乳幼児を診療することに大きな不安を抱えている。そのため出務する医師が少なくなっている。
- なお、0歳児については、急患診療所に比べ、設備が充実し、また小児科診療の経験が豊富な小児科医が出務する急患診療センターを受診するよう広報を行っている。
- 市医師会からの要望  
 「小児科の臨床経験豊富な内科医の減少や高齢化により、急患診療所への出務医師の確保が困難となっていることから、比較的受診者が少なく、急患診療センターに近い博多・城南・西診療所の小児科標榜廃止について検討いただきたい。」

<参考>

①急患診療所の医師体制 (単位：人)

急患診療所	日・祝日・GW	年末年始	
	日勤帯	日勤帯	準夜帯
東	2	3	2
博多	1		
南	2	3	2
城南	1		
西	1	3	2

②一日あたりの小児科受診者数 (H22年度～H24年度平均) (単位：人/日)



※東・南・西のみ年末年始も診療 (時間帯は日勤帯・準夜帯)

## 2. 博多・城南・西急患診療所の診療科目を内科のみにした場合の影響

- 博多・城南・西急患診療所の診療科目を内科のみにした場合、急患診療センター、東・南急患診療所の患者が増え、医師の負担が大きくなると見込まれる。
- その場合、医師の負担の目安である、医師1人が1時間に対応する患者数については、下記のとおり見込まれる。

### 【見込むにあたっての条件】

#### ①小児患者の動き

- ・博多急患診療所：半数が東急患診療所，残り半数が南急患診療所へ。
- ・城南・西急患診療所：全てが急患診療センターへ。
- ・患者数は平成23年度を元に算出。

#### ②医師の体制は現状どおり

### ◆ 急患診療センター小児科における医師1人1時間あたりの診療患者数

<現状>

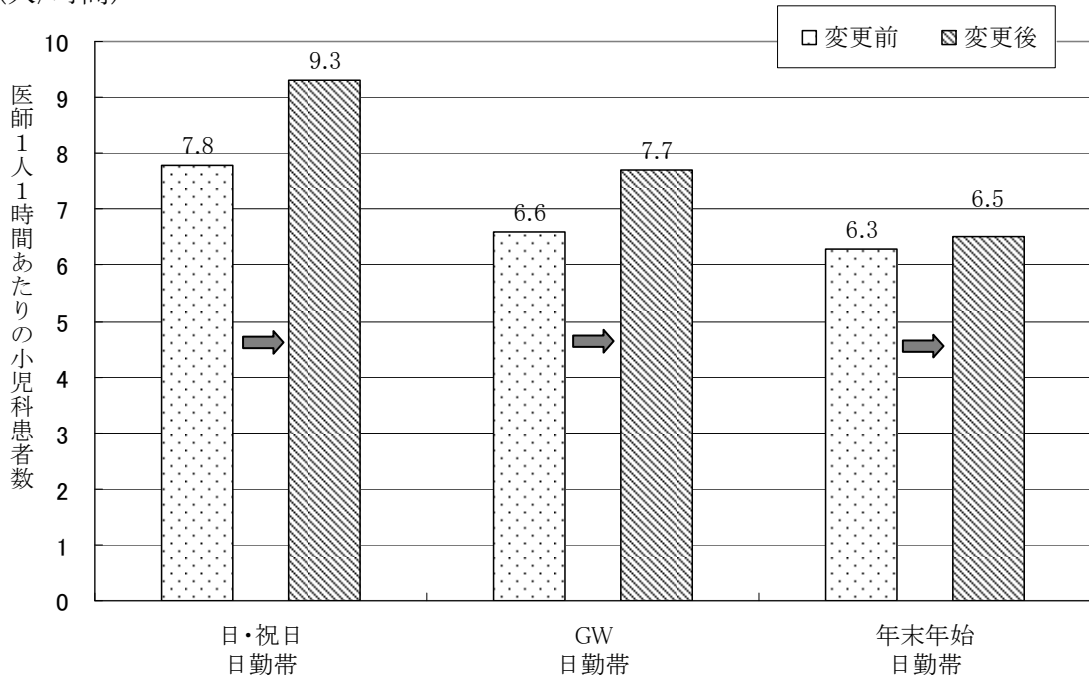
(人/時間)

※丸数字は医師数

時間帯	平日	土曜日	盆	日・祝日	GW	年末年始
日勤				7.8 ②	6.6 ④	6.3 ④
準夜	4.5 ②	8.0 ②	7.6 ③	6.7 ②	5.7 ④	3.9 ④
深夜	1.5 ②	2.7 ②	2.4 ②	1.8 ②	3.5 ②	2.8 ②

<3急患診療所の診療科目を内科のみに変更した場合の影響>

(人/時間)



◆東・南急患診療所における医師1人1時間あたりの診療患者数

※内科小児科併診医師が内科・小児科を診療。患者数は、内科・小児科を合わせた数。

<現状>

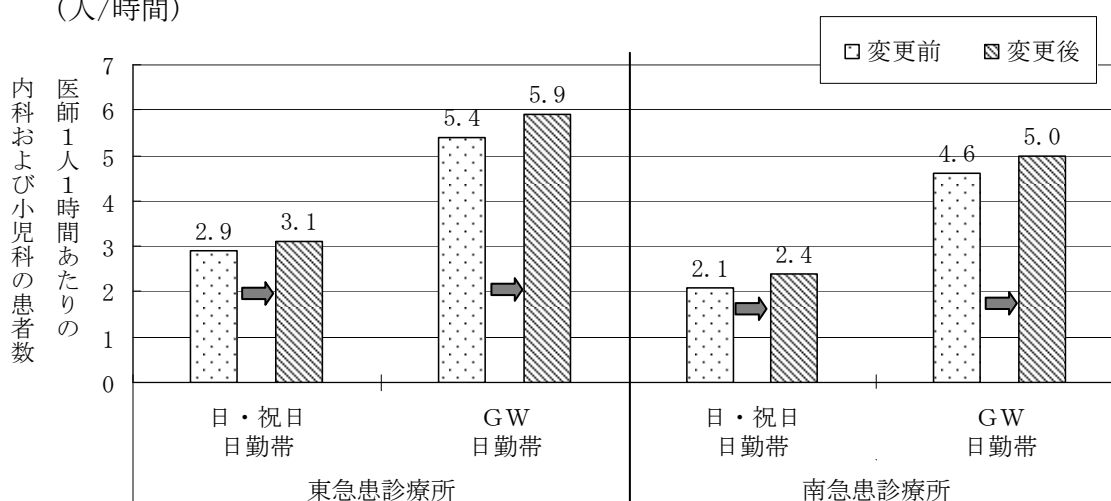
※丸数字は医師数

(人/時間)

時間帯	東急患診療所			南急患診療所		
	日・祝日	GW	年末年始	日・祝日	GW	年末年始
日勤	2.9 ②	5.4 ②	3.2 ③	2.1 ②	4.6 ②	3.0 ③
準夜			1.4 ②			1.3 ②

<3急患診療所の診療科目を内科のみに変更した場合の影響>

(人/時間)



今後、想定される方策

- 博多・城南・西急患診療所の標榜科目が内科のみになることに対し、市民が不安に感じることも考えられるので、まずは、市民への広報・啓発に取り組み、不急患者の減少を図っていく。患者数の状況を踏まえ、必要に応じ、3急患診療所の標榜科目について検討を行う。
- 3急患診療所の標榜科目を内科のみとする場合、急患診療センター小児科においては、休日昼間の患者が増え、医師の負担が重くなることも考えられるので、医師の増員についても検討する。ただし、増員にあたっては、医師確保や予算といった課題がある。